



## 合併20年(平成30年)を迎えて

たきかわ農業協同組合

代表理事組合長 工藤 正光

思いがけない積雪で平成29年  
が終了し、多くの課題と収穫の喜  
びを残して頂きました。

春の融雪も早く期待の始まりに、  
過去に覚えがない強風が発生し4  
月、10月の被害が発生しました。  
春のハウス被害復旧には他のJA  
の応援、職員のお手伝いを含めて  
無事に乗り切ることが出来ました  
ことに感謝いたします。

米の作況は当管内「103」全  
国「100」となり7年続けて豊  
作を迎えることが出来ました。更  
には低タンパク米の実績や良品質  
米の結果は、施設調整も迅速に進  
み早期の精算が出来ました。うる  
ち米、もち米、加工米、種子を含  
めて24万5千俵の集荷となり、  
生産者に感謝を申し上げます。畑  
作物小麦は登熟期の影響を含めて  
細麦の傾向と小麦なまぐさ黒穂病  
の発生が確認され連作、防除体系  
に課題を残し対策が必要でありま  
す。他の作物や花卉にあっても出  
荷時期が重なったことから価格の  
単価が計画を下回る等、熟慮され  
る事でありませぬ。

昨年(平成29年)はJAたき  
かわ第6次3か年計画の最終年で  
あり、今年(平成30年)は合併  
20年の節目でもありこれまでの  
実績を踏まえながら新たに第7次  
3か年計画を策定して参ります。  
生産者の意見を頂きながら行政、  
各関係機関のご指導を尊びながら  
進める所存であります。

農協事業の推移ですが、本体は  
水稻の作況に助けられ概ね計画が  
達成出来ると見込んでおります。  
また子会社JAたきかわサービ  
スの運営ですが、昨年1月末にAコー  
プ東滝川店を閉店しましたが、5  
月25日にセコマ店舗として地域  
の利用者に期待される事となりま  
した。また子会社の経営状況につ  
いて厳しきは同じであります。更  
なる努力と組合員のご利用を願  
う処であります。

国内外の情勢であります。ア  
メリカ大統領の交代によって「T  
PP」交渉からアメリカが離脱し、  
残された11か国での「TPP  
11」の発行を目指し交渉が進ん  
でおります。加えて突然に大枠合

意された、日欧EPA交渉の結果  
を踏まえた内容の新たな予算化の  
中では確定された部分が見えてき  
ません。

当然ながら国内、北海道農業の  
影響が回避されるものではありません。  
更にはアメリカとのFTA  
交渉はTPP以上の譲歩が求めら  
れる可能性があり、数値的な試算  
を踏まえた政府国会での審議が必  
要であると考えられますので、現  
場の意見を、行政を含めて発信を  
しなければなりません。特に今年  
(平成30年)からは米の需給調整  
から国は指導せず、主産地の自主  
計画が求められております。それ  
らの事をしっかりと中央要請をし、  
政策・対策をもって経営の安定化  
を目指すべきと考えております。

新たな3か年計画は地域農業振  
興と持続的農業の継承であります。  
担い手や高齢化の渦の中にあつて、  
将来の目標となるべき方針を樹立  
しなければなりません。

これからの目標、米・野菜にあつ  
ても1俵、1ケースの単価ではな  
く、10a当たりの単価を設定し、  
その中で所得をどの様に確保し、  
生活を豊かにするべきだと思いま  
す。コストの低減、費用の削減等  
JAに求められる情報を提言し、  
負託に耐えられる農協にしなけれ  
ばと考えて参りますので今まで以  
上のご理解とご利用を併せて、迎

年が稔り多く組合員ご家族のご健  
勝を心から願ひましてご挨拶申し  
上げます。

### たきかわ農業協同組合

代表理事組合長	工藤 正光
専務理事	山岸 正稔
常務理事	瓜 善伸
常務理事	白木 正博
理事	福田 慎一
理事	伊藤 公一
理事	池田 裕治
理事	岡本 隆守
理事	吉野 猛光
理事	六田 孝男
理事	滝田 孝造
理事	櫻田 浩生
理事	石川 雅彦
代表理事	吉村 正典
常勤監事	松本 勝志
監事	村岡 洋昭
	他職員一同

### (株)JAたきかわサービス

取締役会長	工藤 正光
代表取締役社長	山岸 正稔
常務取締役	小山 春美
常務取締役	中村 和英
	他社員一同